

町民フォーラム10年の歩み

第1回（平成12年）「ゴミ減量・リサイクルを考える」

パネリスト 名古屋市総務局 外郭団体改革推進室長 桜井 信寿様より

『町民フォーラム』、10年目を迎えるにあたって

内灘町連合女性会の皆様、お久しぶりです。

町民フォーラム、10回目の節目にこのような機会をいただき、ありがとうございます。

さて、10年前に約100万トン进行处理していた名古屋市のごみも平成20年度には約66万トンまで減り、当時大騒ぎした分別や資源化も今では当たり前となっています。

最近では名古屋市内のスーパーのレジ袋はすべて有料化されていますが、こうした取組みの中心になったのは、名古屋市でも女性会でした。やはり、いざとなると女性のパワーはすごい！！

地域を、社会を変えていく力を持っています。

当然、内灘町にお伺いした時の女性会の皆さんのパワーも強烈であったとの印象を持っています。そのパワフルな皆様が10年間に渡って環境問題などに取組まれたのですから、さぞ内灘町も暮らしやすい町になったことと思います。

名古屋では、愛知万博、そしてCOP10と、環境をテーマに、今も頑張っています。皆様も10年前の初心を忘れることなく、日々、内灘町のためにご尽力されることを心よりお祈り申し上げます。

第2回（平成13年）「ゴミ減量・エコライフを考える」

講師 北陸大学教育能力開発センター 教授 三国 千秋様より

環境にやさしい自転車交通に取り組んで10年になります。

子供たちの安全な通学路のために、金沢市内の小・中学校、PTA、高校生のみなさんと一緒に調査をし、これまで5つの「歩行者・自転車安全マップ」を作ってきました。その地図に基づいて70箇所以上の危険な道や交差点が改善されました。そのうちで最大の成果は、国道359号の浅野川大橋から山の上交差点までの1.2kmの区間に「自転車走行指導帯」を設置したことです。これは歩道から自転車を降ろして、自転車が車道の左側を安全に走れるように車道に路面表示したものです。今では通学時の高校生の80%が左側走行を守るようになりました。

2006年からは温暖化防止に向けて「ECOサイクルプロジェクト」を実施してい

ます。毎年2ヶ月間、参加者が通勤・通学・お買い物に自転車を利用するというもので、2009年度は参加者が1,463名、内灘高校を含めて市内11校の高校生も参加しています。今年は合計105.8t(トン)のCO2を削減しました。これは7,553本分の杉の木が一年間に吸収するCO2量に当たります。

このように地域に根ざした地道な活動を今後も続けていきたいと思えます。

第3回(平成14年)「じょうずに節約・地球人のエコライフへ」

パネリスト エコライフ実践主婦 源代 陽子様より

町民フォーラムに7年前の今頃、参加させて頂いたのですね。

普通の主婦の代表で、本当に何も知らない自分のままでひな壇に座っていたことを、かなり面映く思い出されます。

今も何も知らないし、何も出来ないままなので、とても”今の活動”なんて語れません。申し訳ありません。エコライフ実践家として紹介されていますが(恥かしい)、娘たちに言わせたらケチな節約ママでしかありませんし…^_^;

自分の生活、毎日何気なくやっていること、そんな習慣的な部分を見直して自分にも環境にも優しい方向へ考えて改めていこう! パネラーの枝廣先生のお話を聞いて、今も私が継続しているいろんなコトに活着ていると思えます。

何も活動報告が出来なくて申し訳ありませんが、でも、とてもコンパクトでとても温かい内灘町が、大好きです。

これからもヨロシクお願い致します<(_ _)>

第4回(平成15年)「環境学習の風よ吹け」

第6回(平成17年)「語り合おう 私のエコロジー」

講師 環境コンサルタント 小野 三津子様より

熱意ある人と人と人との出会いに感謝して

先日、娘が5歳の誕生日を迎えました。内灘町に伺ったのは、ちょうどこの子の誕生前の2003年と1歳の誕生日を迎えた年。授乳中の講座の時には子守り役の母と娘を連れて、親子3代で伺ったことが懐かしく思い出されます。

印象的だったのは担当者・関係者の熱心さ。内灘町への夢や期待・フォーラムへの意欲が伝わってきて「こういう方々のおかげで地域が発展していくんだ!」と感激したものです。またグループワークの話し合いも活発で、参加者からの意

欲的な発言が続き「これからが楽しみ！」の思いで帰路についたことが思い出されます。そして、いただいた蓮根は格別においしかった！

現在私は農的暮らしを軸にしながら、自然体験・ワークショップ・マクロビオティックの3つの軸で活動しています。子どもから高齢者まで、地球市民としてのよりよい暮らしの作法を、これからも共に考えていきたいと願っています。

第5回（平成16年）「環境学習の風は、今」

講師 環境教育事務所ネイチャーズ・アイ 大嶽 隆様より

2004年の晩秋、「環境学習の風は、今」（日常生活の中に自然を感じるチャンネルを作ろう）と題された町民フォーラムで、お招きいただいた時のことを懐かしく思い出します。

私の暮らす神奈川県葉山町を例に“鳥の目、魚の目、子どもの目”という視点で町を見る面白さをご紹介し、そんな視点で改めて内灘町の魅力を掘り起こしてみようというワークショップをさせていただきました。真っ白い内灘町の地図に、これはお宝だと思える自然の要素を次々に書き込んでもらって、全参加者合作の宝の地図ができあがりました。町の特徴を活かした散歩コースや、自然環境を残そう、という提案も出されました。

その後、内灘町はどう変化したのでしょうか。私の方はというと、さまざまな団体の自然体験プログラムや環境教育の講師、主催のスノーケリング教室を続けながら、貼り絵で自然を描くことも仕事になり、図鑑やビジターセンターなど展示施設のための作品づくりもしています。あれから5年、また内灘町に訪れて、みなさんとお会いしたいものです。

第7回（平成18年）「地元から地球のことを知みましょう！」

講師 田崎 和江様より

内灘町の皆様

日本はすっかり秋らしくなり、過ごしやすい毎日と思います。こちらベトナム、ホーチミン市はまだまだ暑く、毎日30度の日が続く、午後には必ず土砂降りのすごいスコールが来て、雷のためしばしば停電をします。そんな中で、汗をタラタラたらしながら、朝5時起きで、ラックホン大学で週3日生物環境工学（英語）と日本語の読解と聴解を担当しています。3時間ぶっ続けの授業の中に日本の歌、ゲーム、絵手紙、ラジオ体操も入れて楽しくやっています。そのかたわらベトナム

ムの河川を大学の女性スタッフと調査したり、日本へ留学する学生の斡旋をしたりしています。ホーチミンに来て2カ月半になりますが、英語がまったく通用しない中で、一人でタクシーに乗ったり、値段の書いていない市場で食料品が買えるようになりました。ベトナム語もちよぼちよぼと単語を並べるだけですが、そこは生来のズーズーしさで乗り越えています。偽物をつかまされたり（それも3回）、とても酸っぱくて、硬くて食べれない果物を買ったり、お供え用のザボンを途方もない高額で買ったりと失敗も多々ありますが、それはレッスン料を払ったと思えば腹もちません。授業のない日は市内の地理を覚えようと地図を片手に1~2時間も歩くのですっかりベトナム焼けてしまいました。一軒ずつ小さい店を覗くので、何がどこにあるかをつぶさに知ることができます。先日はステンレスのしっかりした棚をデパートの3分の1の値段で買いましたし、路肩でミシンを踏んでいる露天商のおばさんに何と日本円にして1,000円でブラウス3枚を縫ってもらいました。これらはベトナム人にもほめられたよい買い物でした。

ベトナムの南部を流れる大きなドンナイ川は、世界から進出した企業の工業団地からの産業排水や生活排水のため、中流から下流はすごく汚れています。そこで、下流のホーチミン市と河口のブンタオ（石油基地があります）をまず水質の調査をしました。次に、中流の工業団地周辺と大学周辺のドンナイ川を調べ、さらに、昨日はサイゴン川の最上流で水源でもあるチアン湖の水質調査を行いました。最初、女性スタッフ3名でバイクで行くと言っていたのですが、道の悪いそれも始めていく場所を35km（1.5時間）もバイクの後ろに乗るのは危険だから、タクシーを予約すると私が言ったら、<それは高い。大学の車を交渉してみる。>ということになり、15人乗りのバンを運転手つきで借りられました。車が大きく、もったいないし、私が水質のはかり方も教えたいのでといったら、朝なんと男女10名が参加し、微生物環境教室のほとんどのスタッフが参加しました。山の中だからランチが必要と言っておいたら、サンドイッチ、果物、飲み物が沢山用意され、私が持参したリンゴなどを合わせると食べきれないほどでした。まさに調査というよりピクニックです。ちなみに、この昼食は教室が出してくれました。参加者10名のうち、チアン湖に行ったことがあるのは、ドンナイ州で生まれて育った案内役の男性のみ。運転手も初めてとのことで、みんながピクニック気分になるのもわかります。車内は本当ににぎやかとかベトナム語がわからない私にとったらうるさいくらいでした。とにかく女性陣がよくしゃべり、よく笑い、すごく大きな声でしゃべるのです。4名の男性はひっそりとしています。

第一ポイントで止まり、水量のたっぷりしたドンナイ川で採水をしました。みんなが河川に降りてきてわかったのですが、女性4名がなんとおしゃれサンダルなのです。たちまち泥沼に足を取られてしまいました。そこへいくとたくましいベトナム男性の出番です。裸足になりどどん川に入って水を取ってくれました。濁った水のpH、EC、ORP、水温、窒素のパックテストのやりかたを最初だけ教えました。二回目からは彼らだけできちんとやってくれました。私が土手に上がったところで、血まみれの高校生2名を見つけました。バイクでころんで2名とも手足にけがをしていたのです。その傷をあのきたないドンナイ川の水で洗

っていたのです。これは大変、破傷風にでもなったらーと、日本から送ってもらっていた消毒液と消毒綿がまたまた役にたちました。

チアン湖に着きました。なんとそこには黒部川の出平ダムの5~6倍もあるロックフィルダムがあり、水力発電所がありました。そこにはゲートがあり、車は通行禁止。ところがバイクは通っています。スタッフが3~4名で、守衛に談判に行きました。私は車の中で様子を見ていたのですが、ベトナム語がわからずともやり取りの結果はわかります。そこで私の出番です。車を降り、にこにこ名刺を差し出し、英語で調査の趣旨を説明したら、1~2分でOK。最後に日本語で<ありがとう>といい、通過時には、その守衛さんに手を振りました。また、帰りの通過時には、みんなに手を振るように指示しました。野外調査にはこうゆうことも必要だし、常に感謝の念をもって接しなさいと。なお、この門を通過した部外者の車は初めてとのことでした。日本の黒部川の調査を思い出しました。国土交通省や関西電力とのやりとりも。

さて、いよいよチアン湖(ダム湖)の調査です。一日でドンナイ川とチアン湖の両方は無理だろうと思っていたのですが、案内者にく<ボートが借りられるか聞いてください>といったら、なんと20名ぐらい乗れる遊覧船を一時間60万ドンで出してくれるという。そのくらいのお金なら私が持っているので交渉成立。一時間で3か所、それも表面、中間、底部の水が取りたい。学生にく<時は金なり>なんてちょっとわからないことを言い、かつ、<この一リットルの水はすごく高くついているのだから>とせかした。3か所の測定と採水を終えて、船着場についたら、10分経過しており、<おまけしてください>と言ったが、無料でピクニックテーブルも貸したのだからといわれ、70万ドンを払いました。そんなわけで参加者は思いがけなく、チアン湖で遊覧船にも乗って楽しめたのです。今回の調査も日本から持参した釣り用のゴムの赤いバケツが大活躍しました。片山津の柴山潟、タンザニアのビクトリア湖、ロシアのバイカル湖の調査の経験がここベトナムでも役にたちました。

以上のような水質調査はサイゴン川、ドンナイ川、チアン湖ではやられたことがないので、貴重なデータとなります。同僚であり、副学長のTuan先生は最初、私に、<退官後はゆっくりとベトナムの生活を楽しんでください>と言っていたのですが、昨日<早速、英語で論文を書いて、国際学会で発表し、ベトナムの研究費を申請し、ホーチミンで学会を開催しよう>と言っています。また、金沢大学に留学生を送ることができたら、大学間協定を結びたいとも言っています。

内灘の皆様には、その後お会いしていませんが、今も活発に活動されており、敬服いたします。その積み重ねが地球環境を守るかなめになると思います。また、帰国した時にお会いしたいと思います。

それではまた。皆様お元気で。

第8回（平成19年）「うちなだエコアクション10」

講師 国立沖縄工業高等専門学校 生物資源工学科教授 平山 けい様より

内灘町民フォーラム10周年おめでとうございます。

皆様いかがお過ごしでしょうか？2007年の町民フォーラムにお招きいただきお話をさせていただいてから2年がたちます。懐かしくて時々内灘町役場のHPを拝見させていただいております。内灘町のように町全体で地球の未来を考え10年に渡り取組みを続けている市町村は本当に素晴らしいと思います。今後も内灘の地から環境のために考え行動に移すことを世界へ向かって発信していただきたいと思っております。

私自身は、地球環境が私達人間だけのものではないこと、ヒトが生物の頂点にいるわけではないことを若い世代に少しでも多くそして深く伝えて行き、環境を担うプロを育てるべく相変わらず本校でいちばん恐い教員を続けています。沖縄は、ウグイス、セミ、コオロギが一度に鳴くという季節感のまったく無いまだまだ蒸し暑い晩秋を迎えています。インフルエンザ蔓延の日本ですが、これも環境を破壊し続ける人間への警鐘ではないかと思う今日この頃です。皆様どうぞご自愛下さい。

第9回（平成20年）「よみがえらせよう河北潟の魅力！」

講師 石川県立大聖寺高等学校教諭 三津野 真澄様より

町民フォーラム10周年おめでとうございます

「町民フォーラム」が今年10周年を迎えられるとのこと、おめでとうございます。

私が伺ったときの印象は、「熱気が凄い！」でした。連合女性会が主催と聞いて何となく中高年の女性ばかりかな(失礼……)と思って会場に伺ったのですが、男性も女性も、子どもや若者から年配の方まで、会場いっぱいの参加者にビックリ。そして始まってみると、皆さんの熱心さに感激でした。

忘れられないのは小学生の発表です。小学生が発表グループに分かれ、聴衆者は興味あるグループ前に移動してプレゼンを聞くというスタイルに感心しました。(もちろん発表内容にも、です)

また自分の講演では真剣な表情で聞いていただき、嬉しかったです。講演後には町長さん自らが質問してくださり、その笑顔がまたよかったです。町あげてエコタウンを作ろうとされている姿勢が伝わってきました。

私は大聖寺高校の生徒たちと森林整備活動を続けています。今年も3回山に出

かけて、間伐や下草刈りなどを地元の方々と協力して行なうことができました。今後も環境保全という切り口で高校と地域が連携できる関係を発展させていきたいと思っています。

第10回（平成21年）「繋がれ、広がれ、エコ活動の輪！」

事例発表 鶴ヶ丘小学校エコ委員の皆さん

大根布小学校5年生の皆さん

基調講演 講師 萩原なつ子氏 立教大学教授

演題 「ゴミをデザインすれば、地域が変わる、
社会が変わる！～エコアクションことはじめ！～」

パネルディスカッション

「繋がれ、広がれ、エコ活動の輪！」

パネリスト 岡田 秀 氏 鶴ヶ丘小学校教諭

望月 文子氏 内灘町環境審議会委員

秋田 博之氏 内灘町役場環境政策課主査

コーディネーター 多田 美代氏 石川県地球温暖化防止活動推進員